C病棟の人々

どん底62タベレズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｃ病棟の人々

【Ｎコード】
Ｎ１６３７ＢＡ

【作者名】
どん底６２タベレズ

【あらすじ】
閉鎖病棟に住む人々の話…にしたいなぁ

もしそれを舐めたら苦い味がするのだろう。そんな匂いが充満していた。
壁や天井の隅からすみまで茶色く変色し、その上からさらにコーティングしたように粘着性を持った異質な色にその部屋は支配されていた。
保護室と呼ばれているあの刑務所のような部屋から出て2日目に、看護婦に喫煙の有無を聞かれ私が朦朧としながらも通されたのがこの部屋だった。ナースステーションから左右に真っ直ぐ伸びる廊下を歩いていくと片方に病室が並んでいて、その反対側にはトイレや洗面所などが並んでいてつきあたりにその喫煙所があった。
看護婦があれこれ部屋の使い方などを説明し出ていくと灰皿が備え付けられているテーブルを挟んで対面に置かれた椅子から一人の男がたちあがり初対面の挨拶をし始めた。私も適当に挨拶がしたかったのでだが、薬のせいか口が上手く動かなく、相手はそんな状況を見てか私を椅子に座るよう促した。
その時何の話をしたのかは覚えてない。ただ私は自分の理解力を疑うほどわけの分からない話しの展開と彼らの喋り方が独特だった印象があり、脅えとしか言いようのない気持ちが私を支配した。

次の日、担当医に私は抗議した。自分は病気ではないということと、何故閉鎖病棟にいるのかということを。これは人権侵害であり、法律違反ではないかと猛烈に抗議した。しかし医者はナントカ法のナン条という法律があり、医療保護入院は今の患者さんの症状では仕方が無いというようなことを説明し出し、さらにはそうやって怒ることまでも病気なのだと遠回しに言った。私は怒りを通り越し気持ちが沈んでいった。そして、ふざけんなー！と初めて親に連れられ精神科に行ったときのように大声で叫びたくなったがそんな気力す

ら既に持ち合わせていなかった。
それは２４歳の夏だった。その日は父親がどこかのポリープの手術で２，３日入院していた。兄はいわゆる引きこもりに近い状態で出かける時以外は部屋から出てこなく、夜居間には必然的に私と母の二人だけになった。お母さんと二人だけだと静かだねと私が言うと母はお父さんと二人の時は寂しいけどと言った。
食事が済み少しテレビを見ていたら母が少しうるさいからテレビ消そうと言ってスイッチをきった。食卓に並んだたべおわったばかりの皿を前にして急に静かになった空気に私は気まずさを感じ始めた。何か話をしようと考えれば考えるほど話の手掛かりが見つからず、この場をごちそうさまと言って立ち去ろうかと思った。しかしその時母が話し始めた。それは幼い頃の私の話しや親戚の話や、これからお母さんはこういう風にしたいのとかあまり父がいる時に話さない内容だった。私が生まれた時の話やどんな子だったのかその話は母のあたたかい眼差しの中にあった。その時大学を留年し続けたことや付き合っていた彼女にふられたことなどでひどく落ち込んでいた私を見透かしているかように優しく話してくれた。寂しさがほんの少し消えてった。
お母さんありがとうって言いたかった。

しかし、そんな母の耳のあたりを見ていた時それは始まった。おかあさんのぴあすをほめろ。それは音なのか言葉なのか定かではない奇妙な声だった。

続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1637ba/

Ｃ病棟の人々

2012年1月4日03時57分発行